

2026(令和8)年度 入学試験問題

一般選抜 前期日程

地域創生学群 課題論文

【注 意】

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は13時30分から14時30分まで(60分間)です。
3. この問題冊子は表紙以外に4ページあり、解答用紙は1枚、下書き用紙は1枚あります。
4. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
5. 解答はすべて解答用紙の解答欄に記入してください。
6. 解答用紙の氏名欄を除き、受験者本人の特定につながるような氏名、住所、学校名等は記述しないでください。
7. 解答用紙を持ち出してはいけません。持ち出した場合、試験をすべて無効とします。
8. 試験終了後、問題冊子および下書き用紙は持ち帰ってください。

問題 以下に示す資料1および資料2を参考に、公共図書館と民間書店をめぐる状況を分析した上で、地域社会の望ましい将来像とそれに向けた対応策について、あなたの考えを400字以内で述べなさい。

資料 1

公共図書館ならびに民間書店経年変化

年度	公共図書館				民間書店		
	図書館数 (館)	専任職員数 (人)	個人貸出		店舗数 (店)	新規店舗数 (店)	閉店数 (店)
			登録者数 (千人)	貸出数 (千点)			
2004	2,953	14,302	47,022	616,957	19,920	410	1,634
2008	3,164	12,699	51,377	691,684	17,383	480	1,880
2009	3,188	12,114	52,706	711,715	17,187	335	712
2013	3,246	10,933	55,290	695,277	15,602	282	571
2014	3,261	10,539	55,726	690,480	14,658	247	1,176
2015	3,280	10,443	57,509	703,517	14,468	235	712
2016	3,292	10,251	57,323	691,471	14,098	243	736
2017	3,296	10,046	57,401	685,166	13,576	252	854
2018	3,306	9,858	57,960	684,215	13,085	164	763
2019	3,310	9,627	58,041	653,449	12,653	158	648
2020	3,315	9,459	56,807	545,343	12,343	125	496
2021	3,305	9,377	56,626	623,939	11,952	106	526
2022	3,310	9,366	56,673	632,676	11,495	89	534
2023	3,322	9,451	56,638	623,475	10,918	92	614

出典:公益社団法人日本図書館協会「日本の図書館 統計と名簿 2024」、一般社団法人日本出版インフラセンター「J P O 書店マスター管理センター 店舗数推移」(2025.4.4 更新)による。ただし、出題に際して原文の一部を改めた。

資料2

書店を国や自治体が支援することに「賛成」79%、書店の減少「不安」は63%…読売世論調査

読売新聞社は、「秋の読書推進月間(BOOK MEETS NEXT)」に合わせて、全国世論調査(郵送方式)を実施した。国や自治体が書店を支援することに「賛成」と答えた人は79%に上り、「反対」の18%を大きく上回った。

書店が減ることに不安を「感じる」と答えた人は63%で、「感じない」は35%だった。不安を「感じる」と答えた人のうち、書店支援に「賛成」は89%で、「感じない」とした人でも、「賛成」は63%に上った。住んでいる地域で、書店が減っていると「感じる」は65%で、「感じない」は33%だった。

経済産業省が設置した大臣直属の「書店振興プロジェクトチーム」は、関係省庁連絡会議を年内をめどに設置し、書店支援の取り組みを強化する。書店を文化の発信拠点と位置付け、本の流通が滞れば国家の存立基盤や競争力を左右する懸念があるとの判断からだ。

支援に「賛成」は、いずれの年代でも7~8割台を占めており、国などが書店を支援することへの理解は広がっているようだ。

本を買う場所(複数回答)の最多は「書店」の74%で、2位は「オンライン書店」の30%。年代別にみると、「書店」はすべての年代で最も多く、若年層ほど高い割合だった。書店に望むこと(複数回答)は、「豊富な品ぞろえがある」の56%がトップで、「自宅の近くにある」39%、「検索システムの導入など本が探しやすい」25%などが続いた。

一方で、月1回以上、書店に足を運ぶと答えた人は計43%で、昨年調査の51%より減った。この1か月間で本を読んだ人は47%、読まなかった人は51%だった。

調査は8月20日~9月26日、全国の有権者3000人を対象に行い、2025人から回答を得た(回答率68%)。

出典:「書店を国や自治体が支援することに「賛成」79%、書店の減少「不安」は63%…読売世論調査」『読売新聞オンライン』2024年10月27日によ

る。ただし、出題に際して原文の一部を改めた。

(<https://www.yomiuri.co.jp/election/yoron-chosa/20241027-OYT1T50001/>)

2026（令和8）年度 入学試験問題（一般選抜・前期日程）

地域創生学群 地域創生学類

問題訂正

科目名：【 課題論文 】

訂正内容

2 ページ **資料1** 表中

2008 年度、2013 年度の「新規店舗数」および「閉店数」の数値

(誤)

年度	公共図書館				民間書店		
	図書館数 (館)	専任職員数 (人)	個人貸出		店舗数 (店)	新規店舗数 (店)	閉店数 (店)
			登録者数 (千人)	貸出数 (千点)			
2004	2,953	14,302	47,022	616,957	19,920	410	1,634
2008	3,164	12,699	51,377	691,684	17,383	480	1,880
2009	3,188	12,114	52,706	711,715	17,187	335	712
2013	3,246	10,933	55,290	695,277	15,602	282	571
(途中省略)							
2023	3,322	9,451	56,638	623,475	10,918	92	614



(正)

年度	公共図書館				民間書店		
	図書館数 (館)	専任職員数 (人)	個人貸出		店舗数 (店)	新規店舗数 (店)	閉店数 (店)
			登録者数 (千人)	貸出数 (千点)			
2004	2,953	14,302	47,022	616,957	19,920	410	1,634
2008	3,164	12,699	51,377	691,684	17,383	434	1,013
2009	3,188	12,114	52,706	711,715	17,187	335	712
2013	3,246	10,933	55,290	695,277	15,602	295	1,069
2014	3,261	10,539	55,726	690,480	14,658	247	1,176
(途中省略)							
2023	3,322	9,451	56,638	623,475	10,918	92	614